

基本計画書

基本計画									
事項	区分	記入欄						備考	
計画の区分		学部の設置							
フリガナ		ガッコウホジシ ユキョウガクエン							
設置者		学校法人 行吉学園							
フリガナ		コベジョシダガク							
大学の名称		神戸女子大学 (Kobe Women's University)							
大学本部の位置		兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号							
大学の目的		建学の精神「民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」に基づき、自立心に富み、対話力と創造性にすぐれ、人類社会の発展に貢献する女性を育成する。							
新設学部等の目的		心理学部では、人間の心的過程と行動のメカニズムに深い関心を持ち、社会における人間の多様な営みを心理学の視点から理解し、他者と心理的な交流を深めて協働して活動することのできる人材を養成する。 心理学科では、心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	心理学部 【Faculty of Psychology】	4	80	—	320	学士 (心理学) 【Bachelor of Psychology】	令和4年4月 第1年次	兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目7番2号	
	心理学科 【Department of Psychology】								
計		80	—	320					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	心理学部心理学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位			
		90 科目	45 科目	10 科目	145 科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	心理学部 心理学科	7 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	11 (9)	2 (2)	76 (76)
		計	7 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	11 (9)	2 (2)	— (—)
		家政学部 家政学科	6 (6)	3 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (11)	4 (4)	9 (9)
	既設分	管理栄養士養成課程	9 (11)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (21)	8 (8)	21 (21)
		文学部 日本語日本文学科	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	13 (13)
		英語英米文学科	3 (3)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	16 (16)
		国際教養学科	4 (4)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	15 (15)
		史学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	20 (20)
		教育学科	16 (17)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	27 (28)	2 (2)	118 (118)
		健康福祉学部 社会福祉学科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	2 (2)	16 (16)
		健康スポーツ栄養学科	6 (7)	4 (5)	1 (1)	0 (0)	11 (13)	3 (3)	18 (18)
		看護学部 看護学科	11 (11)	5 (5)	6 (6)	15 (15)	37 (37)	0 (3)	26 (26)
計		73 (77)	43 (45)	16 (16)	16 (16)	148 (154)	19 (22)	— (—)	
合計	80 (82)	45 (47)	17 (17)	17 (17)	159 (163)	21 (24)	— (—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計						
	事 務 職 員		87 (87)	48 (48)	135 (135)						
	技 術 職 員		3 (3)	7 (7)	10 (10)						
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	15 (15)	16 (16)						
	そ の 他 の 職 員		2 (2)	11 (11)	13 (13)						
	計		93 (93)	81 (81)	174 (174)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	校 舎 敷 地	60,601.00㎡	4,174.00㎡	17,849.56㎡	82,624.56㎡	神戸女子短期大学（収容定員480人、必要面積4,800㎡）と共用					
	運 動 場 用 地	9,999.00㎡	0.00㎡	6,675.28㎡	16,674.28㎡						
	小 計	70,600.00㎡	4,174.00㎡	24,524.84㎡	99,298.84㎡						
	そ の 他	62,789.12㎡	0.00㎡	0.00㎡	62,789.12㎡						
	合 計	133,389.12㎡	4,174.00㎡	24,524.84㎡	162,087.96㎡						
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	神戸女子短期大学（収容定員480人、必要面積5,450㎡）と共用						
	48,443.29㎡ (48,443.29㎡)	7,085.46㎡ (7,085.46㎡)	21,253.33㎡ (21,253.33㎡)	76,782.08㎡ (76,782.08㎡)							
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	51室	38室	71室	7室 (補助職員0人)	2室 (補助職員1人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数							
		心理学部心理学科		12 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数			
	心理学部心理学科	285,768 [57,072] (285,768 [57,072])	5,205 [2,655] (5,205 [2,655])	2,135 [2,132] (2,135 [2,132])	3,512 (3,512)	7,762 (7,762)	19 (19)				
	計	285,768 [57,072] (285,768 [57,072])	5,205 [2,655] (5,205 [2,655])	2,135 [2,132] (2,135 [2,132])	3,512 (3,512)	7,762 (7,762)	19 (19)				
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体					
		8,049.23㎡	701席	410,000冊							
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体				
		5,794.54㎡	テニスコート5面								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む	
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円	—	—		
		共同研究費等		2,283千円	2,511千円	2,740千円	2,740千円	—	—		
		図書購入費	2,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	—	—		
	設備購入費	45,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	—	—			
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			家政学部(家政学科) 家政学部(管理栄養士養成課程) 文学部(日本語日本文学科, 英語英米文学科, 国際教養学科, 史学科) 文学部(教育学科) 健康福祉学部(社会福祉学科) 健康福祉学部(健康スポーツ栄養学科) 看護学部(看護学科) 心理学部(心理学科)
			1,410千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	—	—			
			1,450千円	1,250千円	1,250千円	1,250千円	—	—			
			1,300千円	1,070千円	1,070千円	1,070千円	—	—			
			1,370千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	—	—			
			1,370千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	—	—			
			1,430千円	1,220千円	1,220千円	1,220千円	—	—			
			1,900千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	—	—			
			1,370千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等								

既設大学等の状況	大学の名称	神戸女子大学							令和3年度入学定員増(20)	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	家政学部	年	人	年次人	人		0.99			兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号
	家政学科	4	80	—	320	学士(家政学)	1.12	昭和41年度		
	管理栄養士養成課程	4	150	3年次10	620	学士(栄養学)	0.91	昭和43年度		
	文学部						1.03			
	日本語日文学科	4	60	—	240	学士(日本語日文学)	1.03	平成18年度		
	英語英米文学科	4	60	—	240	学士(英語英米文学)	1.02	平成18年度		
	国際教養学科	4	60	—	180	学士(国際教養学)	1.28	平成30年度		
	史学科	4	60	—	240	学士(歴史学)	1.04	昭和44年度		
教育学科	4	165	—	660	学士(教育学)	0.96	昭和44年度			
健康福祉学部						0.85		兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目7番2号		
社会福祉学科	4	80	—	320	学士(社会福祉学)	0.83	平成18年度			
健康スポーツ栄養学科	4	80	—	320	学士(栄養学)	0.87	平成21年度			
看護学部						1.01		令和元年度入学定員増(10)		
看護学科	4	90	—	350	学士(看護学)	1.01	平成27年度			
既設大学等の状況	大学の名称	神戸女子大学大学院							兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	家政学研究科(博士前期課程)	年	人	年次人	人		倍			兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号
	食物栄養学専攻	2	8	—	16	修士(食物栄養学)	0.75	昭和59年度		
	生活造形学専攻	2	6	—	12	修士(生活造形学)	0.00	平成7年度		
	(博士後期課程)									
	食物栄養学専攻	3	2	—	6	博士(食物栄養学)	0.16	平成元年度		
	生活造形学専攻	3	2	—	6	博士(生活造形学)	0.16	平成9年度		
	文学研究科(博士前期課程)									
	日本文学専攻	2	4	—	8	修士(日本文学)	0.00	昭和61年度		
	英文学専攻	2	4	—	8	修士(英文学)	0.00	昭和61年度		
	日本史学専攻	2	4	—	8	修士(日本史学)	0.50	昭和61年度		
	教育学専攻	2	4	—	8	修士(教育学)	0.00	昭和62年度		
	(博士後期課程)									
	日本文学専攻	3	2	—	6	博士(日本文学)	0.00	平成5年度		
	英文学専攻	3	2	—	6	博士(英文学)	0.16	平成4年度		
	日本史学専攻	3	2	—	6	博士(日本史学)	0.00	平成3年度		
	教育学専攻	3	2	—	6	博士(教育学)	0.16	平成元年度		
	健康栄養学研究科(修士課程)									兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目7番2号
	健康栄養学専攻	2	4	—	8	修士(健康栄養学)	1.12	平成28年度		
看護学研究科(博士前期課程)										
看護学専攻	2	8	—	16	修士(看護学)	0.81	令和元年度			
(博士後期課程)										
看護学専攻	3	3	—	9	博士(看護学)	1.44	令和元年度			
附属施設の概要	名称：ハワイセミナーハウス 目的：国際交流の推進 所在地：1720 YOUNG St., Honolulu, Hawaii, 96826 U.S.A 設置年月：平成元年6月14日 規模等：土地683.65㎡、建物1,074.67㎡									

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(心理学部心理学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基 幹 科 目	基礎 I	1前		2		○								兼1		
	基礎 II	1後		2		○								兼1		
	基礎 III	2後		2		○								兼1		
	女性 I	1前		2		○								兼1		
女 性	女性 II	1後		2		○								兼1		
	女性 III	1前		2		○								兼5 オムニバス		
	女性 IV	1後		2		○								兼1		
	地域	神戸学	1前		2		○							兼3		
	地域学習	1通		2			○			1				兼3 オムニバス		
	小計 (9科目)	—	0	18	0		—			1	0	0	0	0	兼12	
全 学 共 通 教 養 科 目	英 語	英語 I-1	1前	1				○							兼2	
		英語 I-2	1後	1				○							兼2	
		英語 II-1	2前		1				○						兼4	
		英語 II-2	2後		1				○						兼3	
		外国語コミュニケーション I	3前		1				○						兼3	
		外国語コミュニケーション II	3後		1				○						兼3	
		教養英語 I-1	1前		1				○						兼2	
		教養英語 I-2	1後		1				○						兼2	
	語 学 科 目 (世 界 の 言 語)	初 習 言 語	ドイツ語 I-1	1前		1				○						兼1
			ドイツ語 I-2	1後		1				○						兼1
			フランス語 I-1	1前		1					○					兼1
			フランス語 I-2	1後		1					○					兼1
		フランス語会話 I	2後		1					○					兼1	
		フランス語講読 I	2前		1					○					兼1	
		中国語 I-1	1前		1					○					兼1	
		中国語 I-2	1後		1					○					兼1	
初 習 言 語	中国語会話 I	2後		1					○					兼1		
	中国語講読 I	2前		1					○					兼1		
	朝鮮語 I-1	1前		1					○					兼2		
	朝鮮語 I-2	1後		1					○					兼2		
	朝鮮語会話 I	2後		1					○					兼1		
	朝鮮語講読 I	2前		1					○					兼1		
	イタリア語 I-1	1前		1					○					兼1		
	イタリア語 I-2	1後		1					○					兼1		
イタリア語会話 I	2後		1					○					兼1			
イタリア語講読 I	2前		1					○					兼1			
	小計 (28科目)	—	2	26	0		—			0	0	0	0	0	兼15	
情 報 科 目	情報 I	1前	2						○		1		1			
	情報 II	1後	2						○		1		1			
	小計 (2科目)	—	4	0	0		—			1	0	1	0	0		
ウ ェ ル ネ ス 科 目	基礎トレーニング	1前	1						○						兼1	
	スポーツと健康の科学	2前	2				○								兼1	
	スポーツ実技 I-1 (球技)	1後		1					○						兼1	
	スポーツ実技 I (バドミントン)	1後又は2前		1					○						兼1	
	スポーツ実技 II (バレーボール)	1後又は2前		1					○						兼1	
	スポーツ実技 III (卓球)	1後又は2前		1					○						兼1	
	スポーツ実技 IV (テニス)	1後又は2前		1					○						兼1	
	スポーツ実技 V (学外)	1後又は2前		1					○						兼3	
	小計 (8科目)	—	3	6	0		—			0	0	0	0	0	兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教養科目	人 と 思 想	哲学	1前	2		○										兼1
		宗教	1前	2		○										兼1
	人 間 心 理 と 行 動	心理学Ⅰ	1前	2		○										兼1
		心とからだの健康	1後	2		○										兼2 オムニバス
	言 葉 と 文 学	言葉と文学Ⅰ	1前	2		○										兼1
		言葉と文学Ⅱ	1後	2		○										兼1
		言葉と文学Ⅲ	1後	2		○										兼1
		手話Ⅰ	1前	2		○										兼1
		手話Ⅱ	1後	2		○										兼1
	歴 史	歴史Ⅰ	1前	2		○										兼1
		歴史Ⅱ	1後	2		○										兼1
		歴史Ⅲ	1後	2		○										兼1
	現 代 社 会	日本国憲法	1前	2		○										兼1
		現代社会Ⅰ	1後	2		○				1						兼1
		現代社会Ⅱ	1前	2		○										兼1
		現代社会Ⅲ	1後	2		○										兼1
		現代社会Ⅳ	1後	2		○										兼1
	数 学	数学Ⅰ	1前	2		○										兼1
		数学Ⅱ	1後	2		○										兼1
	環 境 と 自 然	自然と環境Ⅰ	1後	2		○										兼1
		自然と環境Ⅱ	1前	2		○										兼1
	芸 術	芸術Ⅰ	1前	2		○										兼1
		芸術Ⅱ	1前	2		○										兼1
	衣 ・ 食 ・ 住	衣・食・住Ⅰ	1前	2		○										兼1
		衣・食・住Ⅱ	1後	2		○										兼5 オムニバス
	教 養 総 合	教養総合Ⅰ	1前	2		○										兼2
		教養総合Ⅱ	1後	2		○										兼3
		小計(28科目)	—	0	56	0			—			1	0	0	0	0
演 習 科 目	教養演習Ⅰ	1後	2				○								兼2 共同	
	教養演習Ⅱ	2前	2				○								兼2 共同	
	小計(2科目)	—	0	4	0			—			0	0	0	0	0	兼2
専 門 科 目	心 理 学 基 幹 科 目	心理学概論Ⅰ	1前	2			○			1						
		心理学概論Ⅱ	1後	2			○			1						
		社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学)	1前	2			○			1						
		神経・生理心理学	1後	2			○									兼1
		知覚・認知心理学	1後	2			○				1					兼1
		教育・学校心理学	1後	2			○									
		産業・組織心理学	1後	2			○			1						
		学習・言語心理学	2前	2			○				1					
		発達心理学A(青年期・成人期・高齢期)	2前	2			○				1					
		人体の構造と機能・疾患(人体の構造と機能及び疾病)	2前	2			○									兼1
		心理学研究法	2前	2			○						1			
		心理学統計法	2前	2			○					1				
		臨床心理学概論	2後	2			○				1					
		感情・人格心理学	2後	2			○									兼1
	小計(14科目)	—	28	0	0			—			4	2	1	1	0	兼4
心 理 学 演 習 科 目	心理学基礎演習	1前	2				○			7	2	1	1			
	心理学実験演習Ⅰ	1後	2				○				1		1	1	共同	
	心理学実験演習Ⅱ	2前	2				○						1	1	兼1	
	上級心理学実験演習Ⅰ	3前	2				○				1			1		
	上級心理学実験演習Ⅱ	3後	2				○						1	1		
	心理学研究総合演習Ⅰ	3前	2				○			7	1	1				
	心理学研究総合演習Ⅱ	3後	2				○			7	1	1				
	専門セミナーⅠ	3前	2				○			7	2	1	1			
	専門セミナーⅡ	3後	2				○			7	2	1	1			
	心理演習	3後	2				○			2	1				共同	
	卒業研究Ⅰ	4前	4				○			7	2	1	1			
卒業研究Ⅱ	4後	4				○			7	2	1	1				
小計(12科目)	—	22	6	0			—			7	2	1	1	1	兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	心の脳科学	2後		2		○			1							
	公認心理師の職責	2後		2		○										兼1
	発達心理学B (乳幼児期・児童期)	2後		2		○										兼1
	障がい児・障がい者心理学 (障害者・障害児心理学)	2後		2		○			1							
	心理学的支援法	3前		2		○				1						
	家族心理学 (社会・集団・家族心理学)	3前		2		○						1				
	精神医学 (精神疾患とその治療)	3前		2		○			1							
	カウンセリング	3前		2		○			1							
	心理的アセスメント	3前		2		○										兼1
	健康・医療心理学	3後		2		○										兼1
	心理検査法実習	3後		1				○		1				1		
	関係行政論	4前		2		○										兼1
	司法・犯罪心理学	4前		2		○										兼1
	臨床心理実習Ⅰ	4前		1				○	3	1		1	1	1		共同
	臨床心理実習Ⅱ	4後		1				○	3	1		1	1	1		共同
	福祉心理学	4後		2		○										兼1
	サービスデザイン心理学	2後		2		○										兼1
	行動経済学概論	2後		2		○			1							
	産業カウンセリング	3前		2		○										兼1
	経営組織論	3前		2		○			1							
	心理調査概論	3前		2		○			1							
	消費者心理学	3後		2		○			1							
	ビジネスコミュニケーション	3後		2		○										兼1
	プロモーションの心理学	3後		2		○										兼1
	ブランドと人間行動	4前		2		○										兼1
	交渉の心理学	4後		2		○										兼1
	メディア心理学Ⅰ	2後		2		○			1							
	メディア心理学Ⅱ	3前		2		○			1							
	メディア倫理	2後		2		○			1							
	メディアと人間行動	3前		2		○										兼2
	認知システム論	3後		2		○										兼1
	メディアとデザインの心理学	4前		2		○										兼2
	広告心理学	4後		2		○			1							兼2
小計 (33科目)		—	0	63	0			—	6	1	0	1	1		兼12	
関連科目	データサイエンス入門	1前		2		○						1				
	コンピュータネットワーク	1後		2		○						1		1		
	プログラミング	2前		2		○			1							
	女性とビジネス	2後		2		○									兼1	
	多変量解析	2後		2		○									兼1	
	経営学概論	3前		2		○			1							
	マーケティング	3前		2		○									兼1	
	ITビジネス	3後		2		○			1							
人間行動ビッグデータ解析	3後		2		○						1					
小計 (9科目)		—	0	18	0			—	2	0	1	0	1		兼2	
合計 (145科目)		—	59	197	0			—	7	2	1	1	2		兼76	
学位又は称号		学士 (心理学)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
全学共通教養科目20単位以上、専門科目80単位以上、全学共通教養科目又は専門科目を24単位以上、合計124単位を修得すること。 なお、全学共通教養科目については、語学科目 (世界の言語) のうち「英語Ⅰ-1」、「英語Ⅰ-2」を含む6単位以上、またウェルネス科目は3単位以上とする。 (履修科目の登録の上限：46単位 (年間))								1 学年の学期区分			2期					
								1 学期の授業期間			15週					
								1 時限の授業時間			90分					

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(文学部国際教養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教養科目	基礎	基礎Ⅰ	1前		2		○								兼1
		基礎Ⅱ	1後		2		○								兼1
		基礎Ⅲ	2前		2		○								兼1
	女性	女性Ⅰ	1前		2		○								兼1
		女性Ⅱ	1前		2		○								兼1
		女性Ⅲ	1後		2		○								兼7
		女性Ⅳ	1後		2		○								兼1
	地域	神戸学	1前		2		○			1					兼4
		地域学習	1通		2			○							兼2
		小計 (9科目)	—	0	18	0	—			1	0	0	0	0	兼16
全学共通教養科目	英語	英語Ⅰ-1	1前	1				○		1					兼1
		英語Ⅰ-2	1後	1				○		1					兼1
		英語Ⅱ-1	2前		1				○						兼1
		英語Ⅱ-2	2後		1				○						兼1
		外国語コミュニケーションⅠ	3前		1				○						兼1
		外国語コミュニケーションⅡ	3後		1				○						兼1
		教養英語Ⅰ-1	1前		1				○						兼1
		教養英語Ⅰ-2	1後		1				○						兼1
		教養英語Ⅱ-1	2前		1				○						兼2
		教養英語Ⅱ-2	2後		1				○						兼2
	教養英語Ⅲ-1	3前		1				○						兼1	
	教養英語Ⅲ-2	3後		1				○						兼1	
	初習言語	ドイツ語Ⅰ-1	1前・後		1				○						兼2
		ドイツ語Ⅰ-2	1後・2前		1				○						兼2
		ドイツ語Ⅰ (速習)	1前		2				○						兼2
		ドイツ語Ⅱ (速習)	1後		2				○						兼2
		ドイツ語会話Ⅰ	2前		1				○						兼1
		ドイツ語会話Ⅱ	2後		1				○						兼1
		ドイツ語講読Ⅰ	2前		1				○						兼1
		ドイツ語講読Ⅱ	2後		1				○						兼1
フランス語Ⅰ-1		1前・後		1				○						兼2	
フランス語Ⅰ-2		1後・2前		1				○						兼2	
フランス語Ⅱ (速習)	1前		2				○						兼1		
フランス語Ⅲ (速習)	1後		2				○						兼1		
フランス語会話Ⅰ	2前		1				○						兼1		
フランス語会話Ⅱ	2後		1				○						兼1		
フランス語講読Ⅰ	2前		1				○						兼1		
フランス語講読Ⅱ	2後		1				○						兼1		
中国語Ⅰ-1	1前・後		1					○						兼1	
中国語Ⅰ-2	1後・2前		1					○						兼1	
中国語Ⅱ (速習)	1前		2					○						兼4	
中国語Ⅲ (速習)	1後		2					○						兼4	
中国語会話Ⅰ	2前		1					○						兼2	
中国語会話Ⅱ	2後		1					○						兼2	
中国語講読Ⅰ	2前		1					○						兼2	
中国語講読Ⅱ	2後		1					○						兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教養科目	数学	数学Ⅰ	1前	2		○									兼1
		数学Ⅱ	1後	2		○									兼1
	自然と環境	自然と環境Ⅰ	1後	2		○									兼1
		自然と環境Ⅱ	1前	2		○									兼1
		自然と環境Ⅲ	1前・後	2		○									兼1
		自然と環境Ⅳ	1前	2		○									兼1
	芸術	芸術Ⅰ	1前	2		○									兼1
		芸術Ⅱ	1前	2		○									兼1
		芸術Ⅲ	1前	2		○									兼1
	衣・食・住	衣・食・住Ⅰ	1後	2		○									兼1
		衣・食・住Ⅱ	1前	2		○									兼12
	教養総合	教養総合Ⅰ	1前	2		○									兼1
		教養総合Ⅱ	1後	2		○			1						兼2
	科演習	教養演習Ⅰ	1後	2			○		1						兼3
教養演習Ⅱ		2前	2			○		1							
	小計(34科目)	—	0	68	0	—	—	6	0	1	1	0		兼46	
専門科目	GCP	Intensive EnglishⅠA	1前	1			○					2			
		Intensive EnglishⅠB	1前	1			○					2			
		Intensive EnglishⅡA	1後	1			○					2			
		Intensive EnglishⅡB	1後	1			○					2			
		Follow-up EnglishⅠ	1前	1			○					2			
		Follow-up EnglishⅡ	1後	1			○					2			
		Public Speaking & Report Writing	2前	1			○					2			
		Public Speaking & Report Writing	2後	1			○					2			
		実践英語Ⅰ	3前	1			○		1						兼1
		実践英語Ⅱ	3後	1			○		1						兼1
		国際コミュニケーション演習Ⅰ	3前		1		○					2			
		国際コミュニケーション演習Ⅱ	3後		1		○					2			
		観光英語Ⅰ	2後		1		○								兼1
		観光英語Ⅱ	3前		1		○								兼1
		ビジネス英語Ⅰ	2前		1		○								兼1
		ビジネス英語Ⅱ	2後		1		○								兼1
		アジアの言語A-Ⅰ(中国語)	1前		2		○					1			兼1
		アジアの言語B-Ⅰ(韓国・朝鮮語)	1前		2		○						1		兼1
	アジアの言語A-Ⅱ(中国語)	1後		2		○					1			兼1	
	アジアの言語B-Ⅱ(韓国・朝鮮語)	1後		2		○						1		兼1	
	アジアの言語A-Ⅲ(中国語)	2前		1		○								兼2	
	アジアの言語B-Ⅲ(韓国・朝鮮語)	2前		1		○						1		兼1	
	アジアの言語A-Ⅳ(中国語)	2後		1		○								兼2	
	アジアの言語B-Ⅳ(韓国・朝鮮語)	2後		1		○						1		兼1	
	小計(24科目)	—	10	18	0	—	—	2	0	3	1	0		兼8	
GLSP入門	グローバル・ローカル入門	1前	2				○		2						オムニバス
	グローバル・ローカル技法	1後	2				○		3		1	1			
	グローバル・ローカル基礎Ⅰ	1前	2				○		3		1	1			
	グローバル・ローカル基礎Ⅱ	1後	2				○		3		1	1			
	グローバル・ローカル基礎Ⅲ	1前	2				○		2						
	小計(5科目)	—	10	0	0	—	—	4	0	1	0	0	0		
GLSP専門基礎	人権思想の系譜	1前		2		○			1						
	ジェンダー論	1後		2		○			1						
	多文化共生論	2前		2		○					1			兼1	オムニバス
	地域協働論	1前		2		○			1					兼2	オムニバス
	経営学総論	1後		2		○			1						
	世界の民族と宗教	1後		2		○			1						
	世界の環境問題	2後		2		○								兼1	
	小計(7科目)	—	0	14	0	—	—	3	0	0	1	0		兼4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	神戸と防災学	1前		2		○									兼1
	国際関係論	2前		2		○			1						
	地域開発論	2後		2		○			1						
	国際協力・援助政策論	2前		2		○			1						
	国際協働事例研究	2後		2			○		1						
	国際ボランティア活動論	3前		2		○			1						兼1
	国際ボランティア・リーダーシップ論	3後		2		○			1						
	社会活動の法的基礎	3後		2		○									兼1
	観光論	2前		2		○									兼2
	観光実務論Ⅰ	3前		2		○									兼1
	観光実務論Ⅱ	3前		2		○									兼1
	観光実務論Ⅲ	3前		2		○									兼1
	観光実務論Ⅳ	3前		2		○									兼1
	世界の地理・地誌学	3前		2		○									兼1
	入門会計論	1前		2		○									兼1
	簿記論Ⅰ	1後		2		○									兼1
	簿記論Ⅱ	2前		2		○									兼1
	ビジネス情報処理演習	2前		2			○								兼1
	ビジネスデータ分析演習	2後		2			○								兼1
	国際金融論	3前		2			○			1					
	貿易・投資論	3前		2			○			1					
	国際企業経営研究	3後		2				○		1					
	地域研究AⅠ（アジア）	3前		2			○	○			1				
	地域研究AⅡ（アジア）	3後		2			○	○				1			
	地域研究BⅠ（アメリカ）	3前		2			○	○		1					
	地域研究BⅡ（アメリカ）	3後		2			○	○		1					
小計（26科目）	—	0	52	0	—	—	—	—	4	0	1	1	0	兼9	
OCP	オフ・キャンパス・プログラムⅠ	2前		6				○	2		1	1			
	オフ・キャンパス・プログラムⅡ	2前		12				○	1						
	オフ・キャンパス・プログラムⅢ	2前		18				○	2		1				兼1
	オフ・キャンパス・プログラムⅣ	2前		24				○	1						
小計（4科目）	—	0	60	0	—	—	—	4	0	1	1	0	兼1		
教職必修	英語科指導法Ⅰ	2前		2				○							兼1
	英語科指導法Ⅱ	2後		2				○							兼1
	社会科指導法Ⅰ	3前		2				○							兼1
	社会科指導法Ⅱ	3後		2				○							兼1
	英語学入門Ⅰ	1前		2		○									兼2
	英語学入門Ⅱ	1後		2		○									兼2
	英語史Ⅰ	2前		2		○									兼1
	英語史Ⅱ	2後		2		○									兼1
	英語圏文学Ⅰ	3前		2		○									兼1
	英語圏文学Ⅱ	3後		2		○									兼1
小計（10科目）	—	0	20	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼6	
グローバル・ローカル専門演習Ⅰ	3前	2					○		4		1	1			
グローバル・ローカル専門演習Ⅱ	3後	2					○		4		1	1			
卒業研究	4通	8					○		4		1	1			
小計（3科目）	—	12	0	0	—	—	—	—	4	0	1	1	0		
合計（188科目）		—	37	324		—	—	—	4	0	3	1	0	兼101	
学位又は称号		学士（国際教養学）			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
全学共通教養科目5単位以上、全学共通教養科目又は専門科目41単位以上、専門科目78単位以上を修得し、合計124単位以上取得すること。（履修可目の登録の上限：48単位（年間））							1 学年の学期区分		2期						
							1 学期の授業期間		15週						
							1 時限の授業時間		90分						

授業科目の概要				
(心理学部心理学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通教養科目	基礎	基礎Ⅰ	大学での学修活動において何をどのように学び、どのように行動する必要があるのかを考えていく。そのために、学園のこれまでの女子教育の歴史を振り返り、大学生として成長するイメージを得る。そのうえで、現在の「自分」のあり方を見つめ、また、「自分」の将来像について考え、将来社会人となっていくために必要な基礎力とは何かを検討する作業を行い、大学生として積極的に学ぶ姿勢とキャリアマインドの素地を形成する。	
		基礎Ⅱ	女性を取り巻く現代の社会環境を検討し、「働く意義」「女性の働き方」「社会で必要とされる力」について考える。自立した女性として自らのライフコースをどのように考えてデザインしていくかを見通していくことができるための基礎力の養成を図る。さらに、働くこと、経済的に自立することの意義と、具体的な職業について考えていく。また、さまざまな雇用形態について理解し、その裏づけとなる法律についても学んでいく。	
		基礎Ⅲ	社会人としての自分について具体的なイメージを念頭に置きながら、自らのライフプラン、仕事観、ワークスタイル、働くことに関する自己意識を深化させていく。そして対話力、自己表現の力といった社会人基礎力を高める。そのために、社会のさまざまな事象への積極的な関心を引き出し、自分の考え方を整理して、多角的で公正な視点から論理的に表現する力を養成していく。	
	基礎 女性	女性Ⅰ	人が性別をいかに認識し、習慣や文化として構築しているのか、性別が社会システムの中でどのように機能しているのかを、ジェンダー学の視点に立って考える。本講義では、哲学、文学、心理学、政治学、経済学、社会福祉学など、さまざまな視点からジェンダーについて考えていく。また、国際的なジェンダー知識を修得し、ジェンダーに関する社会的問題とその解決のあり方について考えていく。	
		女性Ⅱ	日本の女性労働者が置かれている状況と問題を、個別・具体的に理解する。女性が働くことは、結婚や子育て、介護などの家族の問題とも密接に関わってくる。それらの出来事が、なぜ女性に偏って起こる傾向があるのか、その理由は何なのか、どうすれば状況を変えることができるのかを中心に理解を深める。そして、女性として、自らの進路や働くということをどう位置づけるのかについて考える。	
		女性Ⅲ	女性の心身の特性に基づく健康について、医学・栄養学・健康社会学の視点を中心に検討していく。女性の精神と身体の特徴および疾患との関連について理解することを目標とする。そのために、女性と食事の関係、肥満とダイエットに関わる問題、女性のメンタルヘルスの特徴、女性における運動と妊娠・出産・産後のプロセスとの関係など、さまざまな視点から考えていく。 (オムニバス方式／全15回) (14 奥野 直／1回) 女性の心身の特性に基づく健康について、水との関わりについて学ぶ。 (17 鈴木 一永／11回) 女性のための食事学について学ぶ。 (22 吉川 豊／1回) 微量元素と健康について学ぶ。 (24 小島 理永／1回) 女性の運動と妊娠・出産・産後のプロセスについて学ぶ。 (28 松本 衣代／1回) 女性の健康(肥満とダイエット)について学ぶ。	オムニバス方式
		女性Ⅳ	人間の営みの半分は女性たちによって支えられている。それにもかかわらず、歴史の舞台上に登場する女性の数は少ない。女性が重要な出来事にかかわってこなかったからではなく、歴史が男性中心で書かれてきたからである。本講義では、主として、中世から近代にかけてのヨーロッパにおける女性たちの主要な活動、日常生活や考えを女性の立場で捉えることを通して、歴史を再構成して見ていく。	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基幹科目	地域	<p>本講義では、神戸の豊かな歴史と文化の営みを、多角的な視点から学習する。歴史という点からは、古くから知られる神戸・須磨の地域的特性や明治以降の神戸の産業発展、そして中国とのつながりについて、また、文化面では、文学、服飾、料理、住居等多彩な分野に亘って神戸との関わりについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(32 松浦 紀美恵／3回) 神戸の食文化について学ぶ</p> <p>(77 道谷 卓／5回) 神戸の歴史、地名と伝説などについて学ぶ。</p> <p>(84 山内 有香子／7回) 神戸の豊かな歴史と文化の営みについて、多角的な視点から学ぶ。</p>	オムニバス方式	
	地域学習	<p>地域社会で催されている行事・活動に主体的に参加し、そこで得られた体験についてまとめ、報告することにより、個人と地域社会の結びつきについて実践的に考える力を修得し、地域社会への積極的な関心を育てる。そのことを通して、学生自らが、主体性・社会性を備えたそれぞれの地域における一人の自立した市民として、どのようにあるべきか自覚的に学んでいく。</p>		
全学 共通 教養 科目	語学 科目 (世界 の 言語)	英語 I-1	<p>さまざまな対話の場において効果的に話すことや聞くことができるよう、基礎的な英語運用能力の獲得を目指す。語彙力や発音の向上を図り、能動的に聞く姿勢を身につけ、英語によるコミュニケーションスキルを育てていく。また、多様な社会状況の中において学生と関わりのあるいろいろなトピックをとり上げ、英語で表現してみることで、会話することができる力を修得する。</p>	
		英語 I-2	<p>I-1に引き続き、さまざまな対話の場において効果的に話すこと聞くことが一層できるよう、基礎的な言語能力の獲得を目指す。語彙力や発音に焦点を当て、そのさらなる向上を図り、能動的に聞く姿勢を身につけていく。また、多様な社会状況の中において学生と関わりのあるさまざまなトピックをとり上げ、英語で表現し、会話することができる力を修得する。</p>	
		英語 II-1	<p>我々が日常生活の中で使っている和製英語を取り上げて見ていくことを通して、正しい英語表現がどのようなものであるのかを習得し、英語で自分の考えを表現でき、英語を母国語とする外国人とのコミュニケーションを円滑に行えるようにする。また、映画を教材として用いることで、英語のフレーズなどを増やす。</p>	
		英語 II-2	<p>母語や背景となる文化が異なる人たちが接触するとき、どのような問題が起こるのか考えることを通して、異文化コミュニケーションを成功させる基となる「差異」の理解を図る。英語で書かれた記事やCMなどを通して文化の差異をめぐるさまざまな問題を取り上げ考察する。さらにそれらをテーマとした映画なども補助教材として用いる。</p>	
		外国語コミュニケーション I	<p>将来社会人として活動する場において、外国人との英語によるコミュニケーションをスムーズに行えるようになるために、さまざまな場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践的運用能力を養う。授業では、オーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身につけた英語能力を更に伸ばし、確かなものとする。</p>	
		外国語コミュニケーション II	<p>Iに引き続き、社会で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションの場においてスムーズに会話が行えるよう、さまざまな場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養う。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身につけた英語能力を基盤にして更に伸ばし、堅実なものとしていく。</p>	
		教養英語 I-1	<p>基礎英語文法を中心に、書く、読む、話す、聞く、の英語の4技能の学習を通して授業を展開していく。各回の授業では、まず見本になる英文に触れ、その中で語や句がどのように使われているかを理解していく。また、さまざまな状況を想定した場面における会話練習を通して会話表現の力も身につける。</p>	
		教養英語 I-2	<p>I-1に続き、基礎英文法を中心に、書く、読む、話す、聞く、の4技能のさらなる向上を目指して授業を展開していく。各授業では、まず見本になる英文に触れ、その中で語や句がどのように使われているのか理解を深めていく。また、さまざまな具体的な場面における会話を体験し、英会話の運用能力も修得していく。</p>	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語	教養英語Ⅱ-1	学生が社会場面で出会うであろうさまざまな会話状況において、自信をもって効果的に話したり、聞いたりすることができる基本的な言語能力を取得することを目指す。各回の授業においては、各学生の語彙や発音の正確さ、スピーキングや聞き取り能力など、コミュニケーションに関わる全体的なスキルの向上を図っていく。	
	教養英語Ⅱ-2	Ⅱ-1に引き続き、学生が社会場面で出会うであろうさまざまな会話状況において、自信をもって効果的に話したり、聞いたりすることができる言語能力を取得することを目指す。各回の授業においては、各学生の語彙や発音の正確さ、スピーキングや聞き取り能力など、コミュニケーションに関わる全体的なスキルの一層の向上を図っていく。	
語学科目(世界の言語) 初習言語	ドイツ語Ⅰ-1	ドイツ語を初めて学ぶ人達を対象に、「発音・文法・会話」の基礎を学ぶ。人称代名詞、動詞の現在人称変化、名詞の性・冠詞、sein, habenの現在人称変化、名詞の人格変化、命令形、前置詞、名詞の複数形、冠詞などについて学習する。また、ドイツ語圏の文化事情も紹介し、ドイツ語の世界の理解と興味を深める。	
	ドイツ語Ⅰ-2	Ⅰ-1に引き続き、「発音・文法・会話」の基礎を学ぶ。語法の助動詞、未来形、従属の接続詞、時刻の表現、形容詞の格変化、形容詞・副詞の比較、分離動詞、非分離動詞、動詞の3基本形、現在完了形、過去形などについて学習する。ビデオ教材を使用して、ドイツ語の世界の更なる理解と興味を深め、簡単な日常会話ができることを目指す。	
	フランス語Ⅰ-1	フランス語の発音と文法の基礎を学ぶとともに、フランスの文化にも触れる。文法としては、名詞や形容詞の扱い方、動詞の活用などを学び、フランス語の基本的な仕組みをしっかりと理解する。また、実際にフランス人と話す時に使えるフレーズを覚えて、簡単な会話ができるようにする。言葉の背景にある文化を理解するため、フランスの食べ物やファッション、映画、本などを紹介し、フランスでの生活についても触れる。	
	フランス語Ⅰ-2	フランス語の発音と基礎文法を学び、フランスについての知識を身につける。発音については、繰り返し読む練習をして無理なく定着させていく。文法としては、いろいろな動詞の活用に加え、目的語、人称代名詞などを学び、初等文法を完成させる。また、実際にフランス人と話す時に使えるフレーズを覚えて、簡単な会話ができるようにする。	
	フランス語会話Ⅰ	さまざまな文章に触れることを通して文法や表現を学び、使えるボキャブラリーを増やしていく。毎回異なる角度からテーマを扱った文章を読んで、そこから実際に会話で使える表現を学ぶ。地方や都市の文化、歴史から、旅行ガイド、交通手段、道の尋ね方、美術館、買い物の会話まで、多様な教材を使って学び、会話におけるフランス語運用能力とフランス文化についての知識を同時に身につける。	
	フランス語講読Ⅰ	さまざまな文章に触れることを通して文法や表現を学び、使える語彙を増やしていく。フランスの食文化を全体の主なテーマとし、毎回異なる角度からテーマを扱った文章を精読する。カフェやレストランの文化的背景から、そうした場所で交わされる会話、フランス料理特有の食材や郷土料理についての文章、メニューやレシピまで、多様な教材を使い、読解力とフランス文化についての知識を同時に身につけていく。学んだ表現を実際に使えるよう読んで書く練習も行う。	
	中国語Ⅰ-1	本授業では、中国語の簡化字(簡体字)の字形を理解し、書くことができるようになること、中国語の基礎語彙200字程度を使うことができるようになること、中国語の入門段階の文法(動詞述語、形容詞述語文、存在文の肯定形・否定形、疑問文など)の理解、中国語による簡単な会話などができるようになることを目指す。	
	中国語Ⅰ-2	Ⅰ-1に引き続き、中国語の簡化字(簡体字)の字形を理解し、書くことができるようになること、500語前後の単語と基本文型を覚えること、中国語の初級段階の文法(助動詞、前置詞、連動文、二重目的語文、完了相、進行相、持続相、変化の“了”などの理解)をする。また、中国語の簡単な会話文を聞いて理解できることを目指す。	

全学共通教養科目

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学科目 (世界の言語) 初習言語	中国語会話 I	中国語であいさつをしたり、簡単な日常会話できるようになることを目指す。そのために語彙を増やし、新しい文法事項を学び、それを運用できる会話能力の修得を図る。授業では、身近な話題を取り上げながら、関連する表現を学び、会話能力を伸ばすための練習を取り入れる。また、映画などの教材を用い、中国の生活や風習などについての理解を深める。	
	中国語講読 I	中国の国情や文化について述べた文章を講読することを中心とし、文章に出てくる文型の確認や練習問題、文章の内容に関連するミニ会話の練習も行う。それを通して、中国語の発音、基礎的な語彙と文法の習得を図る。また、中国語の文章を辞書を引きながら読む練習をし、文脈を把握して、文章全体の中で適切な翻訳ができる力を育てていく。	
	朝鮮語 I-1	韓国・朝鮮語の文字や基礎的な文法・文型を学習し、基礎会話ができるようになることを目指す。文字の読み書き、そして基礎文法・応用会話の順に朝鮮語の仕組みを学んでいく。使える言葉を学習するために、発音や会話の練習など、発話機会をできるだけ多く設ける。また、歌や映画等の素材を用い、言葉を修得しながら異文化理解を深めていく。	
	朝鮮語 I-2	I-1に引き続き、「読む」、「書く」、「聞く」そして「話す」ことをバランスよく学習する。基礎文法を応用した会話を繰り返し練習して、学習したことが発話につながるようにしていく。朝鮮語による会話を楽しむことができるような表現力のアップを目指す。歌、映画、書物などの教材を用い、異文化への理解を一層深めていく。	
	朝鮮語会話 I	簡単な会話の朝鮮語による会話の練習を行い、そのうえでさまざまな表現を学び、時制や敬語の表現など、より高い難易度の表現も学習する。授業では、会話練習とひとりひとりの発話機会を多く設ける。時制や敬語などの学習を行い、基礎会話表現の幅を広げ、旅行や日常場面など、より多様な場面で応用できる能力の修得を目指し、韓国文化への理解を深める。	
	朝鮮語講読 I	基本的な文法や文型の学習を通じて、簡単な文章の解読や作文ができる能力を身につけていく。そして、朝鮮語の表現力のアップと共に言語を支えている発想の仕組みについても考え、韓国の文化や社会を理解する。また、文法にのっとった会話だけではなく、実際に使われる表現も取り入れながら、韓国語の根底にある考え方にも触れていく。	
	イタリア語 I-1	食にまつわる言葉として、日常場面でも多くのイタリア語がつかわれている。そのようなイタリア語について、イタリアへ行ったときに、あるいはイタリア人と知り合ったときに簡単なコミュニケーションが行えるよう、基本的な文法事項を学習し、得た文法知識を応用して簡単な会話ができるよう学習を進展させていく。	
	イタリア語 I-2	動詞規則活用、動詞不規則活用、名詞・冠詞・形容詞の複数形、補助動詞などの文法事項を学習しながら、会話によるコミュニケーション能力の獲得へとつなげていく。そして、買い物でのやりとりや自分の行動の予定の説明など、会話場面において簡単なやりとりができるような力を身につけていく。	
	イタリア語会話 I	イタリア語を用いてコミュニケーションがとれるよう、イタリア語の音に親しみ、発音練習を重ね、使える語彙を増やし、会話表現を修得していく。そのために、自己紹介、友人の紹介、職業についての説明、食事の注文など、日常生活における具体的な場面を想定した会話練習を行っていく。	
	イタリア語講読 I	絵本や歌を通じてイタリア語の発音や文法を学習する。絵本の文章や歌詞を読み、理解することで、イタリアに行ったときやイタリア人と知り合ったときに使える単語や表現を増やしていく。そのために、不規則な活用をするやや複雑な動詞などについて繰り返し発音の練習を行い、コミュニケーションで使える単語や表現を増やしていく。	
情報科目	情報 I	「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につける。情報モラル・セキュリティー等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。情報を積極的に活用する上でのルールやマナー、著作権やプライバシーの侵害をしないなど、情報発信における留意点についても学ぶ。また、ワープロ、表計算、プレゼンテーション等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解する。	

全学共通教養科目

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 共通 教養 科目	情報科目	「情報Ⅰ」で修得した基礎の上に、情報の統合を学ぶ。文章と画像のように、形式の違う情報をまとめて取り扱い処理する。さらに、情報通信（インターネット・電子メール）の活用を通じ、情報伝達の方法を学習する。現代では、インターネット犯罪が増加傾向にある。そこで表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等を利用した情報の活用方法について学習すると共に、情報モラル・ネットワーク利用のエチケットやセキュリティを学ぶ。		
	ウェルネス科目	基礎トレーニング	個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチの意義とその効果および各部位のストレッチ方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。	
		スポーツと健康の科学	科学技術の発達によって日常生活の身体的負担は軽減した。しかし、運動不足がリスクファクターとして関与している疾病は多く、総称して運動不足病と呼ばれている。健康を支える要素はさまざまな領域で報告されているが、身体活動が健康に及ぼす影響についても多くの研究報告がなされている。健康や体力の捉え方は個々の人生観や価値観、職業や社会的環境などで異なるであろうが、本講義では生涯を通じた健康・スポーツの捉え方について考えていきたい。	
		スポーツ実技Ⅰ-1 (球技)	スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、球技を通して更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。	
		スポーツ実技Ⅰ (バドミントン)	基礎トレーニングを修得した人に、バドミントンを通してスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導を行い、より高いレベルのウエルネスライフを構築する。技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。	
		スポーツ実技Ⅱ (バレーボール)	基礎トレーニングを修得した人に、バレーボールを通してスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導を行い、より高いレベルのウエルネスライフを構築する。技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。	
		スポーツ実技Ⅲ (卓球)	基礎トレーニングを修得した人に、卓球を通してスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導を行い、より高いレベルのウエルネスライフを構築する。技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。	
		スポーツ実技Ⅳ (テニス)	基礎トレーニングを修得した人に、テニスを通してスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導を行い、より高いレベルのウエルネスライフを構築する。技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。	
		スポーツ実技Ⅴ (学外)	基礎トレーニングを修得した人に、水泳などのスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導を行い、より高いレベルのウエルネスライフを構築する。技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。	
	一般科目	人と思想 哲学	16世紀以後の何人かの西洋の哲学者を選んで、それぞれの生涯におけるエピソードも交えて、その哲学の基本になっている考えについて講義する。近代の哲学者では、デカルトやカントなどを選んで、その哲学の今日から見た意義について考える。戦争と革命の世紀といわれる20世紀では、人間と戦争について考察を深めたアーレントの思想を取り上げる。	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通教養科目	人 と 思 想	宗教	本講義では、一神教ではキリスト教、多神教では日本の古代からの神々への信仰、そして神をたてない宗教では仏教を取り上げる。新約聖書や原始仏典などから抜粋した言葉を読みながら、それぞれの宗教の中心的な教えについて説明する。そして、一定の理解をもったうえで、永井隆、宮沢賢治、松本清張を取り上げて、その著作と行動における宗教の問題を考える。授業全体を通して、私たちは宗教にどのように向き合えばいいのかなどについて考える。	
		心理学 I	心理学 I では、生活の中に点在する心理学的知見をひとつずつ学びながら、それらが点から線へ面へとつながるよう、理論とワークショップとを組み合わせながら学んでいき、日常生活における心理学を科学的視点でとらえられるようになることを目指す。テーマとして、脳と発達、記憶、知覚、個人と集団、ストレス、DV、虐待、LGTB、発達障害などをとり上げていく。	
	人 間 心 理 と 行 動	心とからだの健康	近年、いわゆる「健康」への関心が高まっている。一般に「健康」というとき、「からだ」の健康と「心」の健康という二つの面に分けて考えられることが多い。しかし、「からだ」の健康と「心」の健康の二つの側面は互いに密接な関係がある。本講では、「心身相関」の視点を手掛かりにして講義を行うことで、「健康」をさまざまな側面から捉え理解を深めていく。 (オムニバス方式/全15回) (22 吉川 豊/13回) 心とからだの健康、特に嗜好食品との関係について学ぶ。 (32 松浦 紀美恵/2回) からだの健康と栄養・食生活について学ぶ。	オムニバス方式
		言葉と文学 I	現在の神戸市内にある名所旧跡が登場するさまざまなジャンルの古典文学を取り上げ、その作品について概説していく。それらの作品を講読する中で、「須磨」や神戸を手がかりとして日本の古典文学に親しむ。そして、言葉に対する感受性を磨き、古典に対する読解力や理解力を身につけ、日本人としての知識や教養を深めていく。同時に、日本語で豊かに表現し深く理解する能力を養っていく。	
	言 葉 と 文 学	言葉と文学 II	アメリカの文学・映像作品を通して、その社会と文化への理解を深める。アメリカがどのような社会・文化的背景をもち、どのような文学を育んできたのか、その多様な背景を見ていく。そのために、広く一般に親しまれ、深い人間的洞察を含む作品を取り上げ、歴史的・文化的コンテクストを検討していく。そして、各作品にみられる時代や文化を超えた人間の姿や叡智を深く味わっていくことを目指す。	
		言葉と文学 III	日本文学とイギリス文学を比較しながら、その類似点や相違点を検討していく。そして、それぞれの文学の発生と変遷について考える。また、各々の詩、演劇、小説の3つのジャンルの特徴などを明らかにする。さらに、代表的な作品をとり上げ、そのテーマを検討することにより、文学を学ぶ意義や文学に触れる喜び、楽しさについて考えていく。	
		手話 I	手話の歴史と特徴を学習すると共に、日常会話で使う手話について表現・読み取りについて学ぶ。聴覚障害者の生活について学ぶ。形・動作・状況に合わせた具体的な表現、自己紹介、一日の出来事を伝える、過去や現在・未来の表現の仕方、旅行・病院・学校・職場での会話などについて表現を学んでいく。	
		手話 II	手話の基本文法を学び、相手の手話が理解でき、手話で日常会話ができるようになる。聴覚障害者のくらし、歴史について学ぶ。また、形の大小、表情、強弱、速度、様子や形、動きなどの具体的な表現、格の決定、空間活用、同時表現、繰り返し表現、置き換え表現などについて習得していく。	
		言葉と文学 III	日本文学とイギリス文学を比較しながら、その類似点や相違点を検討していく。そして、それぞれの文学の発生と変遷について考える。また、各々の詩、演劇、小説の3つのジャンルの特徴などを明らかにする。さらに、代表的な作品をとり上げ、そのテーマを検討することにより、文学を学ぶ意義や文学に触れる喜び、楽しさについて考えていく。	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通教養科目	歴史	歴史Ⅰ	本講義では、古代中世社会に生きた女性の生活文化を主な対象に選び、各時代に特徴的な女性像を具体的に提示する。そして、その時代特有の男女の性別役割分担の実態や、現代にも根強く残る女性差別思想の成立変遷についても言及する。本授業を通して、日本の歴史的特質を捉えなおし、歴史の見方を広げる力を身につけていく。	
		歴史Ⅱ	前近代の中国や朝鮮半島の政権にとって死活的な外敵は騎馬遊牧民たちだった。最後の中国王朝とされる清朝も、モンゴル人などの遊牧民も含む多民族国家だった。この事実が、現代の民族問題にも影響している。つまり、中国北方の騎馬遊牧民について学ぶことは、中国史・韓国史の理解につながるだけでなく、東アジアにおける日本の位置づけや、現代中国への認識も深めることになる。	
		歴史Ⅲ	日本をはじめとする多くの社会が、ヨーロッパで形作られてきた文明や思想から物質的にも精神的にも多大な影響を受けてきた。本授業では、ヨーロッパ世界の成立から現代にいたる歴史を概観し、ヨーロッパ世界がどのように生まれ、広がり、浸透していったかを明らかにしていく。そして、過去の歴史を知り考察することで、現在を生きる力を養っていく。	
	現代社会	日本国憲法	日本国憲法は我が国の法体系の頂点に位置する根本法であり、国政の基本を定めた法典である。本授業では、「国家と法」「憲法の意味・分類」「日本国憲法の成立過程と特質」等について講義した後、日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「象徴天皇」「権力の分立（国会、内閣、裁判所）」「地方自治」「平和主義」「憲法の保障と改正」等）について解説する。	
		現代社会Ⅰ	私たちは法の存在なしには生活できない、私たちの生活に法がさまざまに関わっている。すなわち私たちは法の世界の住人なのである。この事実を認識し、法の世界の住人に相応しい知識を修得する。とくに身近な法律について概説し、法律に関する基礎知識を身につけ、基本的な法に関する理解と、法に基づく諸権利について見ていく。	
		現代社会Ⅱ	現代日本が抱える経済的諸問題について講義する。戦後の日本経済は大きな発展を遂げた。戦後数十年の経済発展の間に確立した雇用や家族、消費行動など社会の枠組みは、近年の経済の低成長のなかで変化が顕著となってきている。社会の枠組みの変化やそこから生じる課題などについて考えていく。	
		現代社会Ⅲ	本講義では、現代社会の諸相を女性の視点から多角的に考察する。まずヨーロッパにおける女性の権利から現代女性の社会問題までの流れを概観し、次いで北欧における女性の活躍と社会のあり方や北欧社会の知られざるジェンダー史に焦点を当てる。そして最後に日本社会の課題である男女共同参画社会のあり方や、社会を担っていく女性の可能性について考察する。	
		現代社会Ⅳ	「権力と自由」の関係、「国家・集団・個人」の関係などを考察しながら、「政治とは何か」という点に係わるさまざまな知見について解説する。また、日本政治及び国際政治の過去・現状を概説するとともに、その課題について検討し、基本的知識の習得を図る。そして、それらの問題に関して分析的に思考する力を身につけていく。	
		現代社会Ⅴ	高齢者介護・福祉、障がい児者福祉、児童福祉、精神保健福祉、国際社会福祉、社会政策などの観点から、社会福祉の実態を多角的に論じることにより、現代社会の実像を教授することを目的とする。そして、身近な生活に隠れた福祉課題やこれからの少子高齢社会に目を向け、ライフサイクルの視点からこれからの社会のあり方について考えていく。 (オムニバス方式／全15回) (13 植戸 貴子／10回) 障害者福祉：ソーシャルインクルージョンについて学ぶ。 (21 松井 順子／1回) 健康と町づくりについて学ぶ。 (23 下司 実奈／1回) 子どもの発達障害について学ぶ。 (26 清水 弥生／1回) 認知症高齢者のケアについて学ぶ。 (27 曾田 里美／2回) 子ども家庭福祉（子ども虐待・地域の子育て）について学ぶ。	オムニバス方式

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通教養科目 一般科目	数学	数学Ⅰ	数学的活動を通して創造性を培うとともに、数学的思考力を高めるなかで数学を学ぶことの意義を理解する。数学にまつわる歴史や文化の話題についても取り上げ、日常的な事象と数学の関わりについて学ぶ。また、自然数、無理数、複素数、高次方程式、さまざまな関数などについて理解することで、数学的思考力や論理的思考力を培う。	
		数学Ⅱ	記述統計・推測統計の基本的な考え方とその方法を理解する。分散、標準偏差、期待値、二項分布、正規分布、統計的検定などを学ぶことを通して、データの適切な処理方法やデータの見方、また、データから導かれた情報を正確に読み、正しく理解し、有効に活用するための手法を身につけ、数学的論拠に基づいて判断することができる能力を育てる。	
	自然と環境	自然と環境Ⅰ	自然界における物理法則の理解を目指す。さまざまな物理現象を理解するための基礎的な素養を身につけ、自然現象を科学的な視点から分析・探究できる力を修得する。そのために、「運動の法則」「仕事と力学的エネルギー」「熱とエネルギー」「物質と電気」「磁場と交流」「波と音の性質」などのテーマを取り上げ、検討していく。	
		自然と環境Ⅱ	今日の地球の姿を、プレートの動きや地球の長い歴史の中で理解する。地質学的時間、地球の歴史に伴う生命の誕生と進化、固体地球表層とくに海洋リソスフェアの構造や動き、プレートテクトニクス、海洋地形と海洋地殻、地殻の形成と断層、地震活動・火山活動、大陸移動、日本列島の形成などについて理解する。	
	芸術	芸術Ⅰ	日本と西洋の近現代の美術の流れを追いながら、それらがどのように表現されてきたのかを学ぶ。絵画・彫刻等を中心として、できるだけ多くの作品を紹介しながら、それらが制作されてきた背景を探る。「印象派とフォービズム」「シュルレアリスムと近代アメリカの風景画」「ポップアートとラテンアメリカの絵画」「日本のアニメーション」「日本の美術」などのテーマを取り上げる。	
		芸術Ⅱ	日本における明治以降から現代に至るまでの流行歌・ヒット曲の歴史を概観する。そしてさまざまな楽曲の誕生にはどのような背景があり、どのような歴史的文脈の中にあるのかについて、具体的な楽曲を視聴しながら考察していく。とくに音楽のスタイルや音楽業界の形態が変化した昭和に焦点を当てて検討する。また、現代の音楽とテクノロジーとの関係についても取りあげる。	
	衣・食・住	衣・食・住Ⅰ	本授業では、具体的な事例を通して異なる食文化の諸相を学びながら、自らの食文化を改めて内省し、比較対照することによって自分たちの文化を相対化することを試みる。また、食文化の変容や受容の事例を通して、食文化が、実際には固定的なものでも不変のものでもないということ、生活文化としての食文化とは何かを学ぶ。	
		衣・食・住Ⅱ	人は必要な栄養素を食べ物で摂取することで生命を維持しているが、健康のためにはバランスよく栄養素を摂取することが必要であることが栄養学の観点から明らかにされてきた。しかし、食は「何を、誰とどのように食べるか」によって、栄養成分で得られる以上の健康と豊かさを与えてくれる。本講義では、種々の視点から「食の楽しさと健康」について講述し、「どのように食べるか」について考えていく。 (オムニバス方式／全15回) (15 木村 大輔／3回) 栄養素の消化と吸収について学ぶ。 (16 佐藤 誓子／1回) 食の楽しさについて学ぶ。 (20 本田 まり／8回) 食育、高齢者・疾病者の食の楽しみと健康について学ぶ。 (22 吉川 豊／1回) 食における嗅覚について、化学の観点から学ぶ。 (28 松本 衣代／2回) 食におけるおいしさを感じる仕組みについて学ぶ。	オムニバス方式

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通 教養科目	一般科目	教養総合Ⅰ	大学生として学修活動を積極的に行っていくために、論理的思考力や豊かな表現力などの基本的資質を養成する。まず、大学生として学ぶために必要な力とはどのようなものであるのかについて考える。そのうえで、「聞く・読む」「調べる・整理する」「まとめる・書く」「表現する・伝える」などの力を、講義や課題の作成、提出、発表などを通して修得する。	
		教養総合Ⅱ	社会人として必要な基礎力を修得するために、新聞の記事を題材として用いる。さまざまな事象に関する記事の内容をとり上げて深く読み込み、それに対する自分の意見を具体的な根拠に基づいて整理して表明し、他者の意見と照らし合わせて考察していく。そのような作業を通して、自立した個人として考えを深める力や、豊かな表現力、コミュニケーション能力などを養成する。	
	演習科目	教養演習Ⅰ	社会福祉、女性、子育て、教育、高齢者等に関する新聞記事や映像などを通して、社会福祉の歴史や問題の背景に関する基本的な知識を得る。また大学生の住環境とコミュニケーションの問題、ブラックバイトの現状などについてもとり上げ、それらのトピックに関するディスカッションをすることにより、問題とその原因を掘り下げていき、社会的な背景を関連づけて考えることのできる複眼的視点を身につける。	共同
		教養演習Ⅱ	日本や世界の社会福祉の現状、女性の働く環境、子育て支援の現状、高齢者の置かれている状況や家族介護の問題等に関する資料を読むことなどを通して、社会のさまざまな問題の背景にある要因に関する基本的な知識を習得する。そのうえで、学生として学習、研究、調査を行っていくための基本的な方法を学び、発表や報告を効果的に行う手法を身につける。その中で課題追究能力を身につけ、幅広い視野、主体的な学習力を養うことを目的とする。	共同
専門科目	心理学基幹科目	心理学概論Ⅰ	学問としての現代心理学が成立してきた経緯とその発展過程の歴史を明らかにする。そのうえで、人がその感覚器官を通してどのように周りの世界を知覚し、記憶として保存しているのか、また、経験したことを学習するメカニズムはどのようになっているのかについて検討する。そして、人が行動する際の動機づけや、感情・情動体験について見ていく。さらに、物事を認知し、思考する能力とは心理学的にどのように理解されるのか明らかにする。	
		心理学概論Ⅱ	概論Ⅱでは、心の発達過程を乳幼児期から高齢期まで生涯にわたって続く過程として捉え、それぞれの発達段階ごとの特徴や発達上の課題をみていく。また、社会関係や集団関係の中で人はどのような影響を受け、どのように行動するのかを明らかにする。さらに、人が心理的に問題を抱えるとはどのような状態で、そのメカニズムはどのようになっているのか、そして、心理的問題を抱えた人に対する援助のあり方にはどのようなものがあるのかを概観していく。	
		社会・集団心理学 (社会・集団・家族心理学)	人間は集団の場においては、個人でいるときには行わないような行動をしてしまうことが少なくない。集団に所属することは、個人にとって精神的居場所となることもあるが、一方では、集団を破壊してしまうような方向に向かわせることもある。このように社会関係や集団関係の場で、人はどのような意識を持ち、行動をとることがあるのか、それはどのような要因によっているのかを文化的要因を含め、具体的な例をとり上げながら検討し、その特徴を明らかにする。	
		神経・生理心理学	人間の脳神経系は極めて複雑な組織であるが、その構造及び脳の各領域の機能について、人間以外の動物の脳神経とも比較しながらその特徴を明らかにしていく。さらに、記憶や感情・認知などさまざまな精神機能の生起するメカニズムを、脳神経系や生理機能と関連させながら見ていく。また、脳の疾患によって生じる高次脳機能障害と言われる状態について、その様相を検討し、さらにその障害に対してどのような支援が必要か考える。	
		知覚・認知心理学	人間の感覚や知覚と呼ばれる心理的メカニズムについて明らかにし、その理解を図る。そのうえで、感覚や知覚に障害が生じた場合のわれわれの行動に与える影響について明らかにする。さらに、より高次の機能である思考や認知とその発達の過程に関する心理学的な研究から得られたこれまでの知見を整理し、概観していく。また、思考や認知が障害される場合の特徴や人間の行動に与える影響について検討する。	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 心理学基幹科目	教育・学校心理学	近年の教育現場において生じている児童生徒の抱える諸問題についてとり上げて見ていく。すなわち、不登校、いじめ、非行、親による虐待などの問題の実相やその特徴と、それらの背景要因について心理学の知見に基づいて検討し、教育や学校の場において必要な心理的援助のあり方について考える。また、各学校種における児童生徒同士の関係や児童生徒－教師関係にみられる心理社会的諸課題について心理学の視点から検討していく。	
	産業・組織心理学	組織における人間の心理や行動には、その産業や組織の文化などが影響を与え、独自の特徴を示すようになることがある。産業や組織の構造や特性、組織の人間関係、組織を取り巻く社会状況との関係などが、その組織に所属する人間の心理や行動に与える影響について検討する。また、産業や組織の中で人はどのようにキャリアを形成していくのか、その時どのような課題が生じ、どのような支援が必要となるのか、組織と個人の関係から考えていく。	
	学習・言語心理学	人間が周囲との関わりの中で新たな行動をどのようなメカニズムで獲得し、学習していくのかを明らかにする。また、人間を他の動物と大きく異ならせ、特徴づけている能力である言語がどのような機能を有しているのかを明らかにし、さらに、言語がどのように獲得され、発達していくのか、その過程を詳しく見ていく。また、言語の機能が障害された状態について取り上げ、その様相を明らかにし、また、支援のあり方についても考える。	
	発達心理学A (青年期・成人期・高齢期)	人間の精神発達の過程のうち、青年期・成人期から高齢期をとり上げ、その特徴を明らかにする。青年期は、自己の確立に向けた精神的作業が行われていく変化に富んだ特徴のある時期である。また、成人期は精神的に成熟した状態で、高齢期は徐々に後退していく時期と考えられがちである。しかし、人間は、その生涯を通して発達していく過程にあると捉える現代の発達心理学の見方からは、決してそのようなことはなく、発達の過程が人生の最後まで継続しているものであることを見ていく。	
	人体の構造と機能・疾患 (人体の構造と機能及び疾病)	人間の身体は、非常に複雑な構造を有しており、同時に全体が相互に有機的に関係しあいながら、総合的なまとまりを持って機能している。そのような人体の構造と各部位の機能の特徴を整理し、互いの関連を明らかにしていく。また、身体が疾患を有するとはどのような状態になることなのか、さまざまな疾病や障害をとり上げながら概説する。さらに、心理的支援が必要ながんやその他の難病などの疾病についてもとり上げて検討していく。	
	心理学研究法	科学としての心理学における実証的かつ客観的な研究方法について見ていく。人間の心理と行動に関するデータを収集する心理学的な手法について、量的研究方法および質的研究方法の両面から具体的に検討していく。そして、得られたデータをどのように分析し、その分析結果をどのように読み取っていくことができるのかを具体的に明らかにする。さらに、心理学の研究を行っていく際に研究者に求められる倫理についても明確にしていく。	
	心理学統計法	心理学は、人間の心や行動を科学的手続きに基づいて、客観的に把握することを目指す。そのための分析方法として、さまざまな統計的手法が用いられることが多い。そこで、心理学で用いられる記述統計学や推測統計学に関する基礎的知識を理解し、統計処理の手法について学習する。そのために、心理学実験や調査、観察によって得られた実際のデータを用いて、その統計的処理を行うことの意味を理解し、具体的な方法と分析の仕方を修得する。	
	臨床心理学概論	まず臨床心理学が成立し発展してきた歴史的経緯を明らかにする。そのうえで、臨床心理学における代表的な理論として、精神分析、ユング心理学、人間性心理学、認知行動療法などをとり上げ、それぞれについて成立してきた背景やその考え方、具体的な臨床実践の方法などを、その理論的特徴や技法的特徴を相互に比較しながら概観する。さらに、それらの理論がわが国に導入された経緯や、どのように受容され展開してきたのかを明らかにする。	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学 基幹科目	感情・人格心理学	感情がどのように生じるのか、そして、人間の行動にどのように影響を与えるのかを、感情に関する代表的な心理学理論をとり上げながら明らかにしていく。また、人格（パーソナリティ）とはどのような状態を意味しているのか、また、人格が形成されるとはどのような過程なのかを考察する。人格を捉える代表的なアプローチである類型論や特性論について詳しく見ていく。また、人格を把握するための心理テストについてもとりあげる。	
	心理学基礎演習	心理学に関わる日常的なテーマを見出し、グループワークにより実際に資料を収集し、それに基づきグループでの相互討議を行うことによりそのテーマを心理学的視点から多面的に検討する。そのうえで、それぞれの気づきを全体の場で報告し、相互にディスカッションを行って議論を深めていくことにより、心理学の見方、考え方の基本を身につけていく。そのような作業をしていくために必要な、心理学に関する文献検索の方法や図書館の利用の仕方や文献の読み方なども修得していく。	
専門科目 心理学 演習科目	心理学実験演習 I	心理学の基礎となる実験法について、実際の実験を通して学び、人間の心や行動を対象にした心理学的な実験手法の理解を深め、技法を修得することを目標とする。そのために、心理学実験の実習を行いながら、実験的研究の計画・立案に関する理解を深めていく。具体的には、さまざまなテーマに関する実験を参加者が交互に実験者と被験者となって実施し、得られたデータについて統計的な手法を用いて分析を行う。これに基づいて、テーマごとに実験レポートを作成して提出する。	共同
	心理学実験演習 II	心理学実験 I に続いて心理学実験 II では、心理尺度を用いた質問紙調査法を取り上げる。調査テーマ・目的を設定し、調査の計画を立案し、質問紙の作成を行う。そのうえで、実際に調査を実施する。その調査によって得られたデータの統計的処理、その結果の分析と考察などの手順、および、研究レポートにまとめるまでのプロセスを体験する。研究レポートを作成することで、調査法に基づく心理学研究における論文の書き方の基礎を学ぶ。	
	上級心理学実験演習 I	各自が心理学に関して興味・関心のある専門的なテーマを具体的に設定し、それぞれのテーマに基づいて仮説を立てる。そのうえで、その仮説を検証するための具体的な研究手続きを考え、その手続きに基づいて実際に実験を実施していく。そして、実験の結果得られたデータについて適切な方法による分析処理を行い、その分析結果を整理したうえで心理学的な考察を行っていく。これらの一連の作業をレポートにまとめて提出する。	
	上級心理学実験演習 II	I に引き続き、各自が心理学に関して関心のある専門的なテーマを設定し、そのテーマに基づいて仮説を立て、その仮説を検証するための研究手続きを考える。本演習では、とくに質的な研究方法に基づく研究を計画し、面接法などを実施していく。そのようにして、得られたデータについて分析処理を行い、結果を整理したうえで心理学的な考察を行ってレポートとしてまとめる。これらの作業を行うことで、卒業研究の計画につなげていく。	
	心理学研究総合演習 I	地域の人々や自治体、企業などが抱えているさまざまな実際の課題を調査し、グループワークを行いながら心理学的諸側面から分析して解決の方向性を検討する。そのために、地域や企業の人々を招いてその現状や課題について聞き取ったり、学生が実際に現場に出かけてその現状を直接体験したりすることを通して、さまざまな課題の解決やあらたな提案に向かって、心理学の見方・考え方をどのように生かすことができるのかを実践的に学んでいく。	
	心理学研究総合演習 II	I に引き続き、地域の人々や企業が抱えているさまざまな実際の課題を調査したり、その結果についてグループワークを行い、意見を出し合いながら解決に向けたアイデアを提案していく。そのために、地域の住民や企業の人々を演習の場に招いてその現状や課題について聞き取ったり、学生自身が現場に出かけてその実際を体験したりすることを通して、課題解決に向けて、心理学の視点をどのように生かすことができるかを具体的に考える姿勢を身につけていく。	
	専門セミナー I	心理学に関連する諸領域の中から研究テーマを設定して、そのテーマに関わっている専門学術論文を検索したうえで精読していく。そして、その内容についてまとめ、他の参加者に解説し、疑問点などを互いに討議して理解を深める。そのような作業を行うことにより、専門的な知見を習得すると同時に、学術論文の読み方、書き方についてのスキルを身につけていく。また、各自の卒業研究のテーマに関する論文の検索や読み込みにつなげていく。	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学演習科目	専門セミナーⅡ	心理学に関わる課題を探索して研究テーマを具体的に設定し、実際の事例をとり上げて検討したり、そのテーマに関わるさまざまな先行研究における実験や調査結果のデータに基づきながら相互討議を行い、内容について詳しく検討していく。また、人間の心理や行動について学生自身が実際にアンケート調査などを行ってデータを集め、その結果を分析し、考察としてまとめ、プレゼンテーションを実施して参加者相互で討議を行い、理解を深めていく。	
	心理演習	公認心理師として必要な知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項について、具体的な場面を想定したロールプレイングを行い、かつ、事例検討で取り上げる。 (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	共同
	卒業研究Ⅰ	これまでに身につけてきた専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマと仮説を設定する。そして、関連専門文献を検索して読み込み、また、調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集して分析し、仮説を検証する。そして、先行研究、仮説、手続き、結果をまとめて研究発表を行い、質疑応答をすることを通して、実証科学としての心理学の視点を基盤にしなが人間心と行動を見つめていく力を培う。	
	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰに引き続き、専門的知識や研究方法に基づいて自ら設定した研究テーマと仮説に基づいて、関連する専門文献をさらに読み込み、設定した研究手続きに基づく調査や実験、あるいは面接を通して収集したデータの分析と仮説の検証を行う。そして、研究テーマに関する先行研究を展望し、研究の現状や課題を明らかにする。そのうえで、仮説、研究手続き、結果、および考察を研究論文としてまとめ、人間の心と行動を心理学の視点から探究していく力を培う。	
	心理学応用科目	心の脳科学	いわゆる心の働きは脳の活動と密接に関係している。現代では、脳の働きを科学的・客観的に計測して視覚化する技術が急速に進歩してきており、脳の活動と精神現象との関連が詳しく探究されてきている。本授業では、現代の脳科学で明らかにされてきているさまざまな知見を概観することを通して、脳の各領域における活動が心の諸現象とどのように関連しているのかを明らかにしていく。
公認心理師の職責		公認心理師は心理的問題を抱えた人への心理アセスメントや心理援助、あるいはコミュニティへの支援を行うことで、他者のプライバシーとその人生に深く関わる職務を担うことになる。したがって、その職務の遂行においては高い倫理性が求められ、また、関連法令に関する十分な理解が必要である。本講義では、公認心理師としての職務の理解を深め、心理的援助を必要とする人の安全を確保し、知り得た情報を適切に取り扱えるなど、自律し、同時に関係者と連携して職務を遂行することのできる能力の養成を図る。	
発達心理学B (乳幼児期・児童期)		人間の精神発達の過程のうち、乳幼児期から児童期に焦点を当てて見ていく。この時期は人生の急速に発達していく段階である。この時期の数年間の精神発達は認知機能の発達においても感情や社会性の発達においても目覚ましいものがある。そして、人間のその後のパーソナリティの基盤を形成するたいへん重要な時期である。その具体的な様子を詳しくとり上げていき、それらの特徴がその後の発達にどのように関係していくのかを明らかにしていく。さらに、発達障がい等の非定型発達についての基礎的知識及びその考え方についても取り上げていく。	
障がい児・障がい者心理学 (障害者・障害児心理学)		子どもの時期から大人の時期に至るまでに見られるさまざまな発達上の障がいや、精神的あるいは身体的障がいについて具体的にとり上げて概説し、それぞれその障がいの状態について詳しく理解していく。また、現実の社会の中で障がい児や障がい者とその家族が直面する心理社会的な課題について検討し、実際にどのような支援が必要とされており、求められているのか、そのあり方などを心理学の視点から考えて障がいへの理解を深めていく。	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 心理学応用科目	心理学的支援法	心理療法やカウンセリングの代表的な理論をとり上げ、それらが成立してきた歴史的背景や、その概念、意義について考える。また、各立場において、その適応となる対象と限界を明らかにする。さらに、支援を必要とする人との良好なコミュニケーションの持ち方や、プライバシーへの配慮の重要性について考える。訪問による支援や地域支援の意義、及び、支援を必要とする人の関係者に対する支援のあり方についても考える。そして、心理的援助を行う者として、心の健康教育を行うことの意義について考察する。	
	家族心理学 (社会・集団・家族心理学)	家族は、その属する社会や集団との関係から影響を受けながらも独自の特徴をもっている。そのような家族のメンバー間に生じる特有の関係を明らかにしていく。また、その特有の家族関係の中で生じることがあるさまざまな問題について、たとえば不登校、非行、子ども虐待など具体的にとり上げ、家族心理学の観点からどのように理解することができるのか検討していく。そして、そのような諸問題の解決を図るための心理学的アプローチについて見ていく。	
	精神医学 (精神疾患とその治療)	統合失調症、気分障害など代表的な精神疾患についてとり上げ、それぞれの疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援のあり方などについて概説していく。さらに、精神疾患患者の心身に対して、向精神薬をはじめとする薬剤がどのような効果を有しており、どのような影響を与えるのかを明らかにする。さらに、精神疾患患者への臨床心理学的援助のあり方とその意義、および医療機関との連携についても検討する。	
	カウンセリング	カウンセリングは、教育・医療・福祉・保健など様々な領域で、幅広く用いられている。どの領域においても適切な援助を行うにあたり共通して求められることは、まず援助を受ける側の気持ちや不安、心理的葛藤等を理解することである。対象者理解・自己理解の重要性を考えながら、カウンセリングの代表的な各理論に共通する面接の基本的な技法について学んでいく。同時にカウンセラーとして良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法についてロールプレイ・事例検討などを行いながら修得していく。また、クライアントのプライバシーへの配慮など、カウンセラーに求められる倫理についても学習する。	
	心理的アセスメント	カウンセリングや心理療法を行うにあたっては、まず心理的アセスメントを丁寧に実施することがとても大切である。本授業では、心理的アセスメントを行う目的と、実施する者に求められる倫理を明らかにする。また、心理的アセスメントを実施する際の観点を整理し、その展開過程について見ていく。さらに、観察法や面接法、心理検査法などのアセスメント法について取り上げ、その実際を概説する。そして、それらの方法に基づいた記録や報告の適切な作成のあり方について理解する。	
	健康・医療心理学	人は精神的なストレスによってさまざまな心身の症状を発症することがある。そのメカニズムを明らかにし、ストレスによる心身の症状への支援のあり方を見ていく。また、医療の場に来る患者は、さまざまな心理社会的課題を抱えていることが少なくない。そのような人への心理的支援のあり方についても検討する。さらに、保健活動の場での心理社会的課題と被援助者に対する心理的支援のあり方も検討する。災害などの被災者への心理的支援についても考えていく。	
	心理検査法実習	発達検査、知能検査、パーソナリティ検査などの中から代表的な心理検査をとり上げ、それぞれの実施方法、分析方法、解釈の仕方について、学生同士で実際に施行して体験するなどして、具体的に学んでいく。その際、単に実施方法を修得するだけでなく、検査の限界や留意すべき点についても理解を深める。そのうえで、検査結果を所見としてまとめ、被検者にとって意味のある所見とはどのようなものなのかについて理解を深めていく。	
	関係行政論	保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野などの諸分野において、将来公認心理師として職務を遂行していくにあたって身につけておかなければならない諸制度と法体系に関する理解と、関係行政についての知識の修得を図っていく。それらの理解・知識に基づいて、関係諸分野の人たちと協働しながら、援助を必要とする人々への実効性のある支援を遂行していく力を育てていく。	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 心理学応用科目	司法・犯罪心理学	犯罪や非行行為を行う者について、個人要因、家族要因、社会要因などの視点からの心理学的理解や、犯罪被害者の被る心理的影響、及び、家事事件における裁判所の役割と心理学的見方の意義について検討し、基本的知識の修得を図る。そして、司法や犯罪、非行分野において、犯罪を犯した人や非行少年の更生における心理的支援の具体的なあり方や、その家族、さらには被害者への心理的支援の実際について見ていく。	
	臨床心理実習 I	実際に臨床の現場で見学実習を行い、その施設における心理的援助のあり方と特徴について理解を深める。現場に参加するために、事前指導として、各施設の機能とその施設で働く職員の果たしている役割について理解をする。また、心理に関する支援を必要としている人へのチームアプローチの意義、および、多職種連携と地域連携の意義について理解する。さらに、実習生として知りえた利用者や施設に関する情報に対する秘密保持の原則など、身につけておかなければならない姿勢について十分な理解を図る。さらに実習終了後には、事後指導として、実習中の経験を振り返って整理し、内省する作業を行う。	共同
	臨床心理実習 II	臨床心理実習 I に引き続き、実際に心理的支援が行われている現場で見学実習を行い、その施設における心理的援助のあり方と特徴について理解をしていく。現場に参加するために、事前指導として、各施設の機能とその施設で働く職員の果たしている役割や、心理的支援におけるチームアプローチの意義、多職種間連携の意義などについて認識を深める。そして、心理的支援を実践する際に求められる利用者や施設に関する情報に対する秘密保持の原則などの倫理的な姿勢を身につける。実習終了後には、事後指導として、実習中の経験を振り返って整理し、内省する作業を行う。	共同
	福祉心理学	福祉領域においては、障がい児者への支援や虐待を受けた子どもへの支援などにおいて、相談所や福祉施設などの場で社会福祉士や児童指導員などと協働しながら、心理学的な視点に基づいた理解と援助を行うことが重要な役割を果たしていくことになる。ここでは医療領域における臨床心理実践とは異なる特有のアプローチが求められることがある。本授業では、福祉領域における援助を要する人の心理社会的課題や必要な支援の特徴を明らかにしていく。	
	サービスデザイン心理学	近年では、顧客の消費活動においては、物を所有するということが以上に、その商品によりどのような体験ができるかが重視されるようになってきている。そして、顧客が商品を知り購入し、アフターケアを受けるといった一連の過程を、サービスを提供する側の仕組みと関連づけながらデザインし、可視化していくことが求められてきている。このようなサービスデザインを具体的に実現するために、心理学の視点に基づいた人間中心のアプローチを行う。	
	行動経済学概論	経済行動における人間の心理や感情的側面の影響を重視し、心理学的視点を取り入れることで近年非常に発展してきている行動経済学の知見について概観していく。そのために、行動経済学が誕生し、発展してきた背景要因を明らかにし、その研究の展開過程を詳しく見ていく。そして、これまでに得られてきた行動経済学における具体的な知見をとり上げて紹介し、従来の経済学の考え方と比較しながら、あらたな視点についてその特色や意義を考察していく。	
	産業カウンセリング	人は職場における複雑な人間関係や業務遂行の上での問題に直面し、さまざまなストレスを抱えてしまうことが少なくない。それは時に本人を心理的に追い詰めて就業継続を困難なものとしてしまうまでに至らせることもある。そのような困難を抱えてしまっている人に対して、カウンセラーはどのように職場の状況を理解し、職場環境を調整し、ひとりひとりを心理的に支援していくことができるのかについて検討していく。	
	経営組織論	経営は一つの組織体によって行われるものであり、その組織で働く人々の価値観や態度が組織のあり方全体に大きく関わっている。本授業では、組織とそこで働く人々との関係のあり方に関する基本的概念を、組織と個人、組織とその組織を構成する集団、組織の構造、組織の文化などといった観点から理解し、経営組織を運営していくにあたっての実際や諸課題について明らかにする。	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 心理学応用科目	心理調査概論	心理調査を必要とする問題・課題をどのように見出せばよいのか、適切な調査方法を設定して実施していくためにはどういった点を考慮しなければならないのか、調査票を作成する際に求められる倫理的配慮はどのような点にあるのか、また、得られた調査結果を検証するために必要な統計手法はどのような観点から選択するのかなどといった諸点について概説する。さらに、それらの一連の過程を報告書としてまとめる際の留意点を明らかにする。	
	消費者心理学	商品やサービスの購買や利用・廃棄に伴う消費行動を心理学の視点から解説していく。消費行動に関わる知覚・認知過程や感情といった心理的要因、家族や友人からの影響要因や、所属集団からの影響などの社会的要因を検討するとともに、特殊詐欺に代表される消費者被害の現状を解説し、受講生自らの消費行動の特徴や問題点を自覚するための手がかりを学ぶ。また、商品を提供する側のマーケティングと消費者の消費行動との関連についても検討していく。	
	ビジネスコミュニケーション	ビジネスの現場では日々さまざまな人と出会い、対話し、互いを理解することで業務が進められていく。業務を効果的に進めていくためには、相手と円滑にコミュニケーションを展開し、深めていく力を持っていることが大切である。本授業では、ビジネスの場でのコミュニケーションのあり方について検討したうえで、その広げ方、深め方をどのようにすれば身につけていくことができるのか、具体的に考えていく。	
	プロモーションの心理学	プロモーションとは、製品やサービスに対する消費者の関心や意識を高めたり、購買意欲を促進するためのさまざまな媒体を用いたメッセージのことを意味する。本講義では、どのようなプロモーションが人間の心理や行動にとって効果的な影響を与え、どのようなプロモーションは効果的でないか具体的な事例をとり上げながら検討する。また、プロモーションの効果を測るための心理学的な方法についても考えてみる。	
	ブランドと人間行動	企業のブランド力は、その企業の業績を左右する重要な要素である。ではブランドとは企業や消費者にとってどのような意味を持つものなのであろうか。また、どのようにすればブランド力を高めることができ、消費者の行動に効果的な影響を与えることができるのだろうか。そのために企業がとっている戦略の実際や、消費者がブランドイメージを形成する要因について心理学の視点から検討する。	
	交渉の心理学	顧客とさまざまな取り引きにおいて交渉を行っていく時には、顧客との間で円滑なコミュニケーションを行い、信頼関係を形成することがなにより大切である。顧客の心理をよく理解し、コミュニケーションを深め、信頼を得て誠実で効果的に交渉を行っていくために必要なスキルにはどのようなものがあるのだろうか。そして、それはどのようにして身につけていくことができるのか、心理学の知見に基づいて具体的に検討していく。	
	メディア心理学 I	私たちは、急速度で発展しているメディア技術により、膨大な情報を処理し、SNS上で人間関係を構築し、仮想現実空間の中でも生きようになった。メディア心理学は、メディアの形式や内容が、無意識のレベルで個人の認知や感情、そして集団や社会に影響を与える過程について、様々な心理学分野の知見を通して理解する学際的な分野である。高度情報化社会で、この分野の研究がますます必要とされる理由も検討していく。	
	メディア心理学 II	メディア心理学は発達や教育・文化的側面も含む学際的な分野であり、メディアがより複雑になるにつれ、進化し続けている。新しいメディア技術をより効果的に利用しやすくするために、または、異なる発達段階や文化に対応するため、実際にどのようなメディア戦略が成功（失敗）してきたのか。社会や世界が抱える課題を解決するために、どのようにメディアは有効利用されてきたのか。事例研究やメディア業界で働くゲストによる講義を通し、2年次までに得た知識を統合しながら考えていく。	
	メディア倫理	高度情報化社会においてメディアに関する倫理的思考は不可欠である。情報の受信者として、そして発信者として、必要なメディア・リテラシーを身につけるため、マスメディアから広告・SNSやゲーム、表現の自由等についてメディア倫理の観点から洞察する。さらに、この混沌とした世界が抱える偏見や男女格差、環境問題等の課題を解決するために、メディアはどのように利用されるべきか検討していく。	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学 応用科目	メディアと人間行動	<p>現代人は日々メディアと接触し多くの情報を得るだけでなく、SNSやオンラインゲーム等を通して情報の発信者になり、人間関係を構築している。今やメディアは私たちの日常生活に不可欠なものとなっているが、Face-to-Faceで構築された従来の人間関係や社会とはどのような違いがあるのだろうか。現代のメディア社会における人間関係のあり方や集団行動に焦点をあて、利点と問題点、そして解決策について検討していく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(51 笹原 秀夫/9回) 放送・映像メディア・YouTube等を通して人間行動を探り「判断能力」をどう養うかを学ぶ。 (58 巽 尚之/6回) 活字メディア・SNS等を通して人間行動に焦点をあて問題点・解決策を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	認知システム論	<p>認知システムとは、私たちを取り巻く環境のさまざまな情報を捉え、それを意味付けて解釈する身体システムのことである。この授業では、認知心理学、認知科学、認知神経科学などにおける最近の知見に基づいて明らかになってきている認知システムの諸特性を概説し理解を深める。その理解に基づいて、効果的な商品開発や広告制作などにどのような応用ができるかについても検討していく。</p>	
	メディアとデザインの心理学	<p>効果的なメディアのデザインは、メディア媒体の選択や、認知心理等から派生した様々なモデルで説明されている。一方で、現代のように複雑で不安定な世界において、単に理論や市場調査でデザインされた商品や広告には限界があることもわかってきた。グローバルな競争に勝つために必要な「審美感性」(美意識)を鍛えることの重要性についても考えていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(51 笹原 秀夫/9回) 放送・映像メディアを通して認知心理を探り「審美感性」をどう養うかを学ぶ。 (46 北川 勝利/6回) 映像や活字広告から「審美感性」を探り心を刺激するデザインについて学ぶ。</p>	オムニバス方式
	広告心理学	<p>企業活動において効果的な広告を展開することは重要である。スマートフォンなどを介して、個々の消費者の興味・関心に対応した広告が増加するとともに、マスメディア広告も展開され、日常生活の様々な場面で広告との接点が生じている。本授業では、インターネットが普及した現代社会における広告の位置づけ、マーケティングと広告との関係、広告効果を高める方略、広告の影響過程などを、心理学の視点から検討を加えていく。</p>	
専門科目	データサイエンス入門	<p>さまざまなデータを活用して科学的、あるいは実務的に有益な知見を得るためにはデータをどのように加工し処理していけばよいのか、その基本的な考え方と具体的な方法について学んでいく。また、自分が必要とするデータの性質と範囲を決定し、効果的、能率的に収集し、抽出していくための基本的スキルを養成する。さらに、得られたデータを適切に評価し、管理できる能力の基礎を修得する。</p>	
	コンピュータネットワーク	<p>近年急速に発展してきているコンピュータネットワークの仕組みの理解を図り、その活用に必要な基本的知識や技能について学ぶ。さらに、インターネットやSNSなどを介してどのようにすれば必要な情報を適切に得られ、その内容の質を効果的に見分けられ、主体的に管理することができるのかについて理解を図っていく。また、インターネットやSNSを利用する者として身につけておかなければならない倫理・規範について学習する。</p>	
	プログラミング	<p>すべてのコンピューターはプログラムで動いている。そのため、コンピューターを有効に使用するにはプログラムに対する理解を避けて通ることはできない。本授業では、プログラムの基本的な考え方や知識について講義を行う。また、データサイエンスやAIで使用されている言語Pythonを使用し、実際にプログラムを作成し実行することで、コンピューターを実践的に理解する。</p>	

授業科目の概要

(心理学部心理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 関連科目	女性とビジネス	これからの社会が発展していくためには、女性が会社の中で重要なポストについたり起業したりすることがもっと当たり前のことになっていかなければならない。しかし、現実には女性であることによる壁にぶつかることもある。そこで本授業では、女性が社会にある壁を克服してビジネスの世界で積極的に役割を担い成果をあげていくためには、どのようなことができるのか、また必要なのかを考えていく。	
	多変量解析	多変量解析を学ぶことにより、複数のデータの相互の関係を分析することができるようになる。そこで、複数の独立変数からなる多変量データを扱う重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析などの多変量解析の理論と手法について理解を深める。そのために、実際の統計データを対象にして、目的に応じ統計手法の選択を行い、統計ソフトを用いて処理し、得られた結果をどのように分析し、理解していくのかを学ぶ。	
	経営学概論	企業の売り上げや利益、成長性にはどのような要因が影響するのかについて概説する。また、成長や目標の実現に向けて、企業活力の維持・向上をもたらす各構成員の役割、組織の制度や運営のあり方を見ていく。さらに、環境変化に対して企業は効果的な経営戦略を立てるためにどのように活動しているのかなどについて経営理論を概観しながら検討し、企業経営を取り巻く諸課題を考えていく。	
	マーケティング	商品開発や商品の販売方法などにおけるマーケティングの基礎知識を修得する。そのために、商品やサービスの提供において、顧客の側からの多様な要望を把握し、それらに的確に対応していくにはどのようにしていけばよいのかについてその仕組みを学び、消費者の満足度を高めるための視点を身につけていく。また、具体的な事例を通して消費と流通について見ていくことで、マーケティングの実際についての理解を深める。	
	ITビジネス	IT（情報技術）は、ビジネスの世界で欠かせない技術となっている。ますます、AI（人工知能）を代表とする情報技術がビジネスの世界に浸透することは確実であり、ITをビジネスにどのように俊敏に、かつ効果的に活かしていくかが、ビジネスの成功や発展の鍵となっていく。この授業では、ITとビジネスとの関わりについてのこれまでの展開過程や現状を明らかにするとともに、未来の可能性について考究して行く。	
	人間行動ビッグデータ解析	ビックデータとは、一般的なデータ管理・処理ソフトウェアでは扱うことができないような巨大なデータ群のことを指して使われる用語である。たとえばSNSなどに無数に書き込まれている膨大なデータには、人々の嗜好や行動傾向などに関する多様な情報が含まれている。それらを有効に分析・活用することにより、効果的な消費動向の把握を可能とし、有効なマーケティングを行うことができる。本授業では、ビックデータとは何かを明らかにし、その活用の実際について検討し理解を深める。	

学校法人吉学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神戸女子大学				神戸女子大学				
家政学部				家政学部				
家政学科	80	—	320	家政学科	80	—	320	
管理栄養士養成課程	150	3年次 10	620	管理栄養士養成課程	150	3年次 10	620	
文学部				文学部				
日本語日本文学科	60	—	240	日本語日本文学科	60	—	240	
英語英米文学科	60	—	240	英語英米文学科	60	—	240	
国際教養学科	60	—	240	国際教養学科	60	—	240	
史学科	60	—	240	史学科	60	—	240	
教育学科	165	—	660	教育学科	165	—	660	
健康福祉学部				健康福祉学部				
社会福祉学科	80	—	320	社会福祉学科	80	—	320	
健康スポーツ栄養学科	80	—	320	健康スポーツ栄養学科	80	—	320	
看護学部				看護学部				
看護学科	90	—	360	看護学科	90	—	360	
心理学部				心理学部				
				心理学科	80	—	320	学部の設置（届出）
計	885	3年次 10	3560	計	965	3年次 10	3880	
神戸女子大学大学院				神戸女子大学大学院				
家政学研究科				家政学研究科				
食物栄養学専攻 (M)	8	—	16	食物栄養学専攻 (M)	8	—	16	
食物栄養学専攻 (D)	2	—	6	食物栄養学専攻 (D)	2	—	6	
生活造形学専攻 (M)	6	—	12	生活造形学専攻 (M)	6	—	12	
生活造形学専攻 (D)	2	—	6	生活造形学専攻 (D)	2	—	6	
文学研究科				文学研究科				
日本文学専攻 (M)	4	—	8	日本文学専攻 (M)	4	—	8	
日本文学専攻 (D)	2	—	6	日本文学専攻 (D)	2	—	6	
英文学専攻 (M)	4	—	8	英文学専攻 (M)	4	—	8	
英文学専攻 (D)	2	—	6	英文学専攻 (D)	2	—	6	
日本史学専攻 (M)	4	—	8	日本史学専攻 (M)	4	—	8	
日本史学専攻 (D)	2	—	6	日本史学専攻 (D)	2	—	6	
教育学専攻 (M)	4	—	8	教育学専攻 (M)	4	—	8	
教育学専攻 (D)	2	—	6	教育学専攻 (D)	2	—	6	
健康栄養学研究科				健康栄養学研究科				
健康栄養学専攻 (M)	4	—	8	健康栄養学専攻 (M)	4	—	8	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻 (M)	8	—	16	看護学専攻 (M)	8	—	16	
看護学専攻 (D)	3	—	9	看護学専攻 (D)	3	—	9	
計	57		129	計	57		129	
神戸女子短期大学				神戸女子短期大学				
総合生活学科	100	—	200	総合生活学科	100	—	200	
食物栄養学科	60	—	120	食物栄養学科	60	—	120	
幼児教育学科	80	—	160	幼児教育学科	80	—	160	
計	240		480	計	240		480	